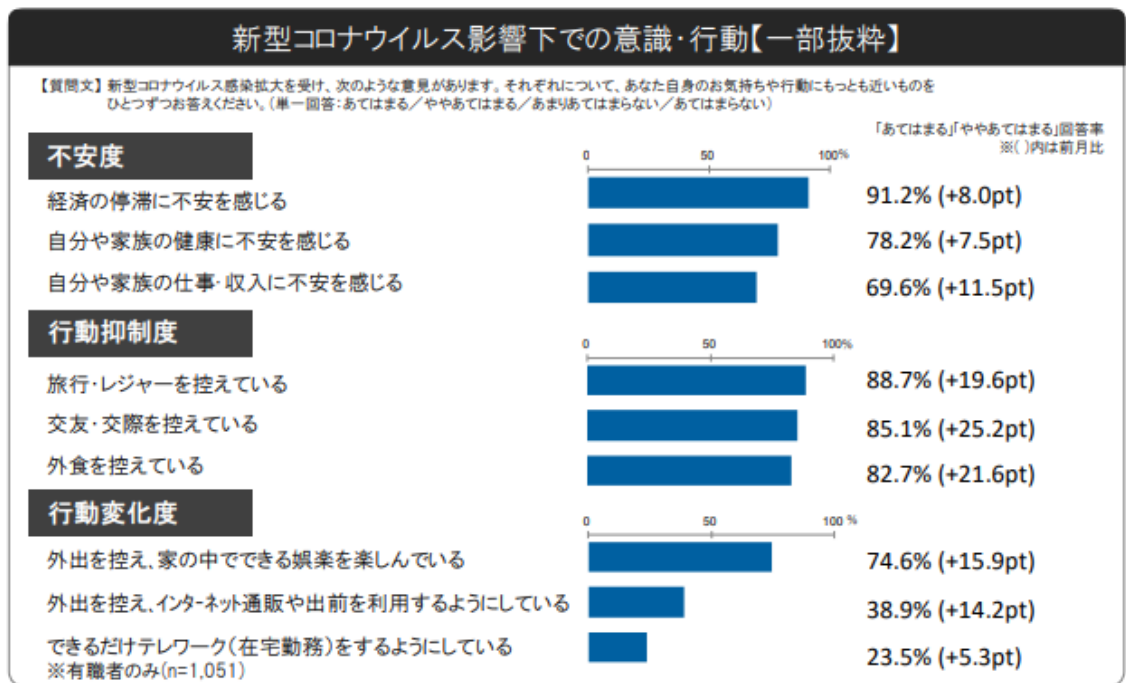


「経済停滞、行政の対応、情報不足に不安」、博報堂の3大都市圏生活者調査で判明

7都府県を対象にした緊急事態宣言が出る前に博報堂が3大都市圏で実施したインターネット調査で、「経済の停滞」、「行政の対応」、「情報の不足や不確かさ」に不安を感じるとした人が3月初めから4月初めまでの間に増え、9割ないし8割以上に上ることが分かった。一方、交友・交際や外食を控えている人は同じ1カ月間で顕著に増えている。ただしテレワーク（在宅勤務）はあまり増えてなく、4人に1人以下、時差通勤・時差通学も3人に1人という結果となった。政府が4月7日に出した緊急事態宣言による効果を今後、検証するうえで、貴重な基礎データの一つになるとみられる。



(博報堂プレスリリースから)

博報堂が4月20日発表した「新型コロナウイルスに関する生活者調査」は、首都圏、名古屋、阪神圏の住民から人口構成比(年代・性)に合わせて20～69歳の男女各500人、計1,500人を選び、インターネットで質問する手法で実施された。調査期間は3月5日～9日と緊急事態宣言が出される直前の4月2日～6日の2回。新型コロナウイルス感染によって自身の意識・行動と、生活の自由度がどう変化したかを聞いた。

3月の調査結果と4月の調査結果で変化の大きさが目立つのは、自分の行動をどう抑制したかを尋ねた質問に対する回答。4月の調査時点で「交友・交際を控えている」と答えた人は3月の調査時点から25.2ポイント増えて85.1%に上った。「外食を控えている」も21.6ポイント増の82.7%、「不要不急の買い物を控えている」も19.7ポイント増の84.2%、「旅

行・レジャーを控えている」も 19.6 ポイント増の 88.7%となっている。「不要不急の外出を控えている」は、3月の調査時点ですでに7割以上だったが、4月にはさらに増えて、89.3%と最も抑制した行動であることを示していた。

行動がどう変化したかを聞いた質問に対しても、変化が目立つ回答がある。「外出を控え、家の中でできる娯楽を楽しんでいる」が3月の調査時点から 15.9 ポイント増えて 74.6%となっている。3月の調査時点でも8割以上が実行していると答えていた「マスク着用や手洗いなど、感染対策を徹底するようにしている」は、さらに増えて 90.8%とコロナ対策で変わった行動の中で最も高い数値を示した。

一方、調査対象者の約3分の2に当たる「有識者」に回答してもらった質問項目のうち「できるだけテレワーク（在宅勤務）をするようにしている」と答えた人は、3月の調査時点から 5.3 ポイント増えたものの、23.5%にとどまった。「できるだけ時差通勤・時差通学をするようにしている」も 8.9 ポイント増えたものの 34.4%、「外出を控え、インターネット通販や出前を利用するようにしている」も 14.2 ポイント増えているものの 38.9%と比較的低い数値となっている。

何に不安を感じるかを尋ねた回答で最も大きかったのは、「経済の停滞」で、8.0 ポイント増えて 91.2%に上った。次いで多いのは「行政の対応」。こちらは4月の調査だけの質問項目だったが、86.9%が不安を感じるとしている。「海外の情勢」が 83.5%（3月は質問項目なし）、「自分や家族の健康」が 78.2%（7.5 ポイント増）、「自分や家族の仕事・収入」が 69.6%（11.5 ポイント増）と、いずれも不安を感じる人が多いことを示している。

4月の調査期間だけに実施した現在の生活の自由度を調べる調査は、普段の暮らし通りと感じる場合を 100 点、極めて不自由と感じるのを 0 点として、回答者に点数をつけてもらう方法で行われた。全体の平均点は 54.3 点で、どれだけ自由が制限されているかについての受け止め方はさまざまであることをうかがわせる数字となっている。理由を自由記述で聞いた答えからも「部屋から出ることなく家で遊んでいられる」と 100 点を付けた愛知県の 20 歳男性から、「我慢しなければいけないことばかりで非常にストレスがたまり、生活のすべてに影響がある」と 10 点を付けた東京の 35 歳男性まで、点数は 10 点から 100 点までまんべんなく散らばっている。

男女別でみると女性（53.2 点）が男性（55.3 点）よりやや不自由と考えていることがわかる。また年代別では 60 代が 57.6 点と最も高い。一番低いのは 30 代の 52.7 点次いで 40 代の 52.8 点。60 代の点数が高い理由として博報堂は「仕事をすでにリタイアしていたり、普段からあまり遠出をしなかったりと、若年層に比べて生活上の影響を受けにくい人が多

いのではないか、などの要因が考えられる」とみている。

新型コロナウイルス影響下での意識・行動

■ 時系列推移(全体ベース・2020年3-4月)

※「あてはまる」「ややあてはまる」回答率
()内は調査人数

		3月調査 (1,500)	4月調査 (1,500)	差分 (4月-3月)
不安度	経済の停滞に不安を感じる	83.2	91.2	+8.0
	行政の対応に不安を感じる	---	86.9	---
	海外の情勢に不安を感じる	---	83.5	---
	情報の不足や不確かさに不安を感じる	74.1	82.3	+8.2
	自分や家族の健康に不安を感じる	70.7	78.2	+7.5
	自分や家族の仕事・収入に不安を感じる	58.1	69.6	+11.5
行動抑制制度	不要不急の外出を控えている	72.5	89.3	+16.8
	旅行・レジャーを控えている	69.1	88.7	+19.6
	体験型エンターテインメント(ライブ・観劇・映画鑑賞など)を控えている	---	86.7	---
	交友・交際を控えている	59.9	85.1	+25.2
	不要不急の買い物控えている	64.5	84.2	+19.7
	外食を控えている	61.1	82.7	+21.6
行動変化度	マスク着用や手洗いなど、感染対策を徹底するようにしている	84.1	90.8	+6.7
	十分な運動・栄養・睡眠をとるようにしている	---	79.5	---
	外出を控え、家の中でできる娯楽を楽しんでいる	58.7	74.6	+15.9
	感染対策商品や日用品の備蓄をするようにしている	50.7	60.5	+9.8
	家にいる時間が増えたので、スマートフォンやパソコンなどのゲームを利用している	---	49.3	---
	公共交通機関の利用を控え、自家用車で移動するようにしている	---	46.9	---
	家にいる時間が増えたので、動画や音楽などのストリーミングサービスを利用している	---	44.7	---
	外出を控え、インターネット通販や出前を利用するようにしている	24.7	38.9	+14.2
	人が密集しない屋外でのレジャーを楽しんでいる	---	38.2	---
	家にいる時間が増えたので、SNSの閲覧・投稿をしている	---	35.0	---
	できるだけ時差通勤・時差通学をするようにしている	25.5	34.4	+8.9
	できるだけテレワーク(在宅勤務)をするようにしている [有職者ベース]3月n=1,042/4月n=1,051	18.2	23.5	+5.3
	家にいる時間が増えたので、通信環境の整備や家電の購入など、家の中の環境を充実させている	---	21.6	---
	家にいる時間が増えたので、フリマアプリ・ネットオークションで出品・販売をしている	---	18.3	---
	家にいる時間が増えたので、フリマアプリ・ネットオークションで購入をしている	---	17.6	---
	家にいる時間が増えたので、投資や資産運用をしている	---	16.3	---
家にいる時間が増えたので、副業をしている	---	14.9	---	
家にいる時間が増えたので、オンライン学習をしている	---	14.3	---	

(%)

(pt)

(博報堂プレスリリースから)

博報堂は4月16日に、博報堂生活綜研(上海)が、北京、上海、広州、深圳、天津、青島、南京、蘇州、杭州、鄭州、武漢、長沙、東莞、成都、重慶、西安の16都市で2月24日～3月4日に実施した「新型コロナウイルス流行による生活者意識調査」を公表している。同じインターネットによる調査で、調査対象も20～59歳の男女1,440人と調査の規模もほぼ同じ。こちらの調査では、「将来の生活に対して漠然とした不安を感じるようになった」と答えた人は35.8%、「今の生活に物足りなさを感じるようになった」という答えも30.9%にとどまった。一方「自分の生活の在り方を見直したいと思うようになった」という前向きな答えをした人は57.2%と過半数を占めている。

日文 小岩井忠道 (JST 客観日本編集部)

関連サイト

博報堂プレスリリース「第1回 新型コロナウイルスに関する生活者調査(2020年4月)」

<https://www.hakuhodo.co.jp/uploads/2020/04/20200420.pdf>

博報堂プレスリリース「博報堂生活綜研(上海)『新型コロナウイルス流行による生活者意識調査』を実施」

<https://www.hakuhodo.co.jp/uploads/2020/04/20200416.pdf>